

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川永嶺高等学校長
今井 健 晴

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- | |
|---|
| 1 生徒一人ひとりが活躍し、成長することを追求して、質の高い教育活動を展開する。
2 保護者や地域住民に愛され信頼される、生徒が誇りに思える学校づくりを推進する。
3 教職員が目標を共有し、役割を果たし、チームでスクール・ミッションを具現化する。 |
|---|

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・授業公開週間やICT活用についての校内研修を通して、個々の授業改善や観点別評価の充実が必要である。	・単位制を生かし、生徒一人一人の興味や能力に応じた科目選択等についてきめ細やかな指導を実施していく必要がある。
改善方策	・授業参観と校内研修等で「指導・評価の一体化」を推進する取組の充実を図る。 ・ICT機器を積極的に活用し、授業改善を図り、生徒の学習意欲と学力の向上を図る。	
生徒指導関係	・特別な配慮、支援を要する生徒が増加傾向にあり、年次コーディネーターの役割が重要性を増している。年次間の連携、特別支援委員会との緊密な連携が必要である。	・生徒指導全般について概ね良好であると評価を受けている。特別な配慮、支援を要する生徒への支援は引き続き重視する必要がある。
改善方策	・外部機関と連携し、生徒一人一人の心身の状態を把握し、適切なサポートを提供していく。 ・いじめの早期発見、早期解消についてもより重視していく。 ・引き続き職員と生徒間の声かけを通じて、コミュニケーションの充実を図る。	
進路指導関係	・進路指導の目標が決まっていない生徒への方策として、入学時からの継続的かつ組織的な進路指導をさらに充実させる必要がある。	・外部講師を活用した「進路セミナー」等の取組は、生徒にとって大きな成果があると考えている。
改善方策	・生徒の興味や適性を早期に把握し、個別面談やキャリア教育の機会を増やすことで、進路に対する意識を高める支援を行っていく。また、定期的な進路相談やインターンシップ等を通じて、進路選択に必要な情報を提供するなど体系的な指導の充実を図る。	
健康・安全指導	・生徒の自主性・主体性を育みながら、心と体の健康も含めた組織的な体制で対応できた。	・各種感染症対策やアレルギーへの対応など、個々の生徒情報を的確に把握し、組織的な安全対策をさらに充実させる必要がある。
改善方策	・特別支援委員会を中心に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の教育相談、生徒個々に対応した組織的な支援体制の充実を図る。 ・衛生委員会を中心にさらなる職場の衛生労働環境の改善と充実を図る。	
信頼される学校づくり	・ホームページを始めSNSを活用した発信に努めた。 ・中学校訪問を活用し、本校の教育活動について理解を広めることができた。	・学校行事や活動状況などの情報をタイムリーに掲載し、情報の伝達がより効果的に伝わるような方策も必要である。
改善方策	・ホームページやSNS等で迅速に情報発信できる、組織的な体制の充実を図る。	
組織運営	・教職員数の減少に対応した組織体制の見直しを行い、業務の精選を図った。	・管理職を中心に、日常的なコミュニケーションを重視した組織運営が重要である。
改善方策	・日常業務のICT化をはじめ、教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）に向けた取り組みの充実を図り、効率的かつ効果的な教育環境の構築を図る。 ・部活動の精選と部活動指導員の活用を行い、教職員の「働き方改革」を推進するとともに、生徒の健全な成長と学習環境の向上を図る。 ・報告・連絡・相談を緊密に行い、組織としての統一性と共通認識のもとで、学校運営を推進し、効果的で充実した教育活動の実現を図る。	

公表方法

学校ホームページ、学校評議員会にて公表する